CampbellCollaboration

Plain Language Summary
International Development

2017

認証制度は農家の世帯収入や労働者の賃金を改善しないように思われる

Photo: Sam Thompson/DFID Rwanda (CC 2.0)

農家や労働者の生活水準が認証制度よって改善されるという保証はない

このレビューについて

このキャンベル系統的レビューは、農家や労働者の福祉を改善するうえでの認証制度の効果について検証している。このレビューでは、43件の量的研究と136件の質的研究から得られた調査結果を要約している。

認証制度(Certification schemes: CS)は、社会的持続性のある農業生産や、農産物の取引を生産者や労働者にとって公正なものにするための自主基準を設け、監視するための制度である。エビデンス・ベースは非常に限定的であり、決定的ではない。認証によって価格が上昇し、作物から得られる収入も増加するものの、賃金や世帯収入が増加するわけではない。認証機関は、地域の状況に合わせてより簡単なプログラムを採用し、その影響について厳密に確認すべきである。

このレビューは何を行ったのか？

認証は自主基準の設置と監視を行い、農業生産を社会的に持続可能かつ農産物の取引を公正にするために、政策、権利擁護、能力開発および市場と供給プロセスの構築におけるより広い活動にかかわるシステムを網羅することが可能である。

認証は、農家や、企業の農園・個人生産者によって雇用された農業労働者の福祉を改善すするため、社会経済的な成果や環境的な成果が広い範囲に影響を及ぼすように設計される。認証制度では、基準の設定活動、トレーニング、異なる種類の市場介入、適切な労働基準の適用が組み合わせて用いられている。このレビューでは、認証制度が、低・中所得国における農業生産者や労働者の福祉にとって有効であるかどうかを評価している。

どのような研究が含まれているか？

このレビューが対象とした研究は、農業生産者や労働者の社会経済的成果に対するCSの効果を評価している。適格なCSは，(工業レベルで)第二者もしくは第三者の認証にもとづいており、自社基準を排除している。効果に関するレビューについては、選択バイアスに関するコントロールを明示した実験的手法もしくは非実験的手法が、研究では用いられなければならない。障壁や促進要因、状況的要因に関する疑問に答えるため、質的研究が含まれている。関連する成果に関するレポートでは、手法について十分な報告がなされており、関連するテーマに関する実質的なエビデンスが提供されている。レビューには、量的効果を分析するための43件の研究と、障壁や成功要因、その他の要因を総合的に扱うために136件の質的研究が含まれている。

このレビューはどれぐらい最新のものか？
このレビューの著者らは2016年7月までに発行された研究について検索した。このキャンベル系統的レビューは2017年2月に発行された。

キャンベル共同計画とは何か？
キャンベル共同計画は、系統的レビューを公開している、国際的・自主的・非営利の研究ネットワークである。我々は、社会および行動科学のプログラムに関するエビデンスの質を評価し、まとめている。我々の目的は、人々がより良い選択そして政策決定ができるように手助けをすることである。

この要約について
この要約は ハワード・ホワイトHoward White (Campbell Collaboration) によって執筆されたものである。この要約は Campbell Systematic Review 2017:3 Effects of Certification Schemes for Agricultural Production on Socio-economic Outcomes in Low and Middle-Income Countries: A Systematic Review by Carlos Oya, Florian Schaefer, Dafni Skalidou, Catherine McCosker, and Laurenz Langer (DOI 10.4073/csr.2017.3) にもとづいている。この要約は、タニヤ・クリスチャンセン Tanya Kristiansen(Campbell Collaboration)によって再デザイン・編集され、レイアウトも作成された。この要約は American Institutes for Research for the productionの財政援助を受けて作成された。ここに謝意を表する。

このレビューにおける主な結果は何か？
農業生産者と賃金労働者における中間的・最終的な社会経済的成果に及ぼすCSの効果については、十分なエビデンスが存在しない。。価格に対するプラスの効果はある。しかし、労働者の賃金は、CSの存在による恩恵を受けてはいないようである。生産物の売買による収入は認証を受けた生産者のほうが多くなるもの、全体的な世帯収入が増えるわけではない。認証制度の介入と生産者・労働者の福祉との間の因果連鎖において背景的要因は大きく影響する。

概していうと、研究の質はさまざまで、かなりの数の研究が方法論的な点では不十分である。

このレビューにおける調査結果は何を意味するのか？
農家や労働者に関していうと、調査結果は、認証によって生活水準が改善されるという保証はないということを示している。CSがプラスの影響をもつためには、良好な状態とほかの要因の裏付けが必要である。これらの状態のなかには、短・中期的にみて、認証による実質的改善は期待できないような、社会経済的に深く根差した要因に依拠しているものがある。

CSの実践者やビジネスに関していうと、学ぶべきいくつかの教訓がある。影響に関する要求は、何が達成可能で立証可能であるのかということと一致するべきである。システムと介入の合理化があまり適合しないような複数の標準を別として、標準と介入は修正することができる。影響評価の標準についてはもっと注意を払うべきである。CSはより深い状況の理解を発展させ、介入の種類と範囲について応用と事前確認を行う必要がある。

研究者と評価者は、異なる種類のリサーチ・クエスチョンに関してさまざまな方法を用いることを検討すべきであり、またそれぞれの問いに対してどのような種類のデザインがより適切であるのかについてしっかりと理解すべきである。また、研究者と評価者は、方法と結果について報告する際は、より一貫性があって厳格なアプローチを用いるべきである。